

(別紙様式)

(A3判横)

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立大宮武蔵野高等学校 )

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒の育成 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	---

重点目標	1 生徒一人一人の学力の向上を目指した授業改善の取組 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立と生徒の自主的活動の一層の充実 4 「地域に信頼され、生徒が誇れる大宮武蔵野高校」の実現に向けた開かれた学校づくりの推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 1 8 日 現 在 )		実 施 日 平 成 3 0 年 2 月 9 日	
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	①授業規律が概ね確保され、生徒の授業への関心や意欲が高まってきている。継続的な授業規律に係る指導を行い、生徒が一層主体的に授業に取り組むようにすることが必要である。 ②年2回の授業公開期間における授業見学者も増え、授業改善に向けた機運も高まりつつある。引き続き授業見学や教科会を活用し「分かる授業」に向けて協議の場を設定することや、家庭学習の習慣化を指導する必要がある。	生徒の学習意欲を高め、分かる授業を目指す組織的な取組	①授業へ取り組む姿勢を育成するため授業規律の確保を徹底する。 ①昼休み中の巡回指導を実施する。 ①生徒の学習意欲を高めるため総学やLHRを計画的に活用する。 ②分かる授業実践のために、授業公開週間で教員相互の授業見学を行い、授業の取組について意見交換を行う。(1学期:教科内、2学期:他教科) ②教科内の授業改善に資するため、補助教材やプリント等の共有化を行う。 ②授業の理解度を定着させるため、家庭学習を増やす取組を行う。	①授業開始時に、生徒に授業準備を徹底できたか。 ①昼休み中の巡回指導は徹底できたか。 ①総学やLHRを計画的に実施できたか。 ②各教科で授業改善に繋がる学びあいの機会を持つことができたか。 ②教科内の教材等の共有化と有効活用ができたか。 ②家庭学習の頻度が増えたか。	①チャイム着席はほぼ定着。休み時間中に教科書等を揃える指導を強化。 ①全職員で組織的に取組み徹底できた。 ①総学は進路講演会やガイダンス等計画的に実施し、各担任面談等を実施して生徒理解に努めた。 ②研究授業を含め授業見学者数が増え、新しい手法による授業展開に積極的に取り組んでいる教員も増えた。 ②各教科で教材の共有化が進み、授業の質の向上を図った。各種検定試験受験者も増加。 ②家庭学習の習慣化は65%(昨年61%)で増加。	A	①チャイム始業は概ね徹底できているので授業準備の意識もさせていく。 ①昼休み中の巡回指導も継続して実施。 ①総学・LHRでは、内容等についても検討し計画的な実施に努める。 ②授業力向上に向け、公開授業の参加・意見交換を推進し、さらに研修等への自主的な参加を推進する。 ②他教科との連携した教材の共有にも取り組む。 ②各種検定試験受験を通し、生徒の意欲や自信を高め、全校をあげて家庭学習習慣化の方策を検討する。	・新しい手法による授業展開、反転学習やジグソー法などの取組は評価に値する。 ・授業は大変落ち着いた雰囲気で行われている。教室も整理整頓されている。 ・授業で本時の目標を明示したらどうか。 ・大学で苦勞している生徒が多いため、PCのブライントタッチ等、先を見越した指導をお願いしたい。 ・少人数できめ細やかな授業を展開しており、わかりやすい授業であった。
2	①大学・短大への進学者が約4割に達するなど、段階的な進路指導の成果が現れてきている。今後も保護者への理解・協力を得ながら、分野別進路ガイダンスなど、一層の充実を図る必要がある。 ②昨年度、進路未定者数は、過去2年間より微増した。今後も生徒の第一希望実現に向けて、1学年から日常的教育活動を通しキャリア意識を高めていく必要がある。	系統的、組織的な進路指導・キャリア教育の取組	①進路実現のための努力を促すため、保護者・生徒との面談等を計画的に実施する。 ①生徒に的確な情報収集を行わせるため、進路ガイダンスや進路指導室の活用を促進させる。 ②3年間を見通したキャリアガイダンスを計画的に実施する。 ②就職指導を充実させるため、就職支援アドバイザー等の外部指導者を有効に活用する。	①保護者への進路情報の提供。 ①学年毎の進路ガイダンスを計画的に実施することができたか。 ②進路未定者の割合が減少したか。 ②就職支援アドバイザー等を活用することができたか。	①保護者対象大学等進路見学会を実施。 ①各学年で分野別ガイダンスを計画的に実施できた。 ②12月末現在の進学希望者78%の内、90%が決定。進路未定者は、全体の6%で大幅減少。(昨年度14.2%) ②就職支援アドバイザーの活用により、学校幹旋就職希望者は97%決定。各教科と連携し表現力の強化を図った。	A	①生徒自身にも受け身でなく主体的に情報を収集させる。 ①総学・LHRでの面談を通じて生徒理解をより一層深める。 ②学校生活の充実が進路決定に直決することを入学当初から意識させる。特に、女子生徒のキャリア意識の向上が課題。 ②資格検定を受検する生徒が増えた。意欲ある生徒への進学意識の向上を図る。	・ほぼ全員が進路実現できている所は評価に値する。引き続き、生徒一人ひとりの進路実現を目指して指導をお願いしたい。
3	①登下校時のマナー向上など、登校指導等の成果が出ている。引き続き、挨拶や言葉遣いを含めた規範意識の一層の向上を目指した指導を実施していく必要がある。 ②全体の遅刻者数は1クラス当たりの1日平均1.02人と昨年度の1.3人を下回ることができた。今後は遅刻が常習化している生徒に対し遅刻の及ぼす影響を理解させ、減少に転ずるよう粘り強く指導していく必要がある。	基本的生活習慣のさらなる確立	①登校指導、下校指導、立哨指導を通して、通学時のマナー及び規律ある態度を身につけさせる。 ①全校集会・学年集会時に「身だしなみ、礼儀」を丁寧かつ粘り強く指導する。 ①規範意識の一層の向上のため、日頃の挨拶、言葉遣いに対し学校生活全体を通してブレのない指導を行う。 ②毎月の遅刻指導と定期的な頭髪服装指導を実施し、生徒の規範意識を高める。 ②遅刻が常習化している生徒に対する指導方法を工夫する。	①通学時のマナーが向上したか。 ①集会時の態度や姿勢が向上したか。 ①挨拶や言葉遣いが年度当初と比べ身についたか。 ②遅刻指導、頭髪服装指導の成果。 ②生徒指導主任及び校長指導による指導対象生徒が減少したか。	①組織的な交通指導・立哨指導により登下校中の大きな事故は殆ど無く、マナーも向上した。 ①集会時の私語は殆ど無く、態度は良好。校内で挨拶が増え、礼儀も身につけてきている。 ②頭髪服装指導は、概ね指導の二週間後には改善することができた。 ②生徒指導案件は昨年度より3件減少(1月末現在)。遅刻常習化の生徒が一部増加。(校長遅刻指導該当者:4人→7人)。	A	①登校指導の成果が現れてきており、引き続き「通学マナー」「言葉遣い」「挨拶・返事」の指導を徹底する。 ①校外でも本校生徒として意識を持って行動できるよう指導する。 ②頭髪服装指導は概ね浸透しており、保護者と連携した指導をさらに進めていく。 ②遅刻常習化傾向にある生徒に対し、指導方法を検討する。	・以前から生徒の様子を見ているが、落ちてきたようだ。マナーアップの取組も良い。 ・高校三年間で何を学びたいか聞くとか答えられない中学生もいる。高校でも生徒に夢と希望を持たせる指導をお願いしたい。
3	①学校全体の部活動加入率は、65.2%と昨年度から若干下回り、継続性に課題がある。女子が男子の2.5倍の在籍数の中、部活動の活性化を継続的に実施していく必要がある。アルバイト原則禁止と許可基準に基づいた運用を行い、部活動加入率の増加と活性化に繋げる必要がある。 ②本校の学校行事に分校生が参加することにより双方とも教育効果を上げている。今後も分校との交流及び共同学習に取り組み、共生社会を形成する一員としての意識をさらに高める必要がある。	生徒の自主的活動のさらなる充実	①生徒に達成感や自信をつけさせるため部活動の加入・継続を促す。 ①アルバイト許可制を浸透させる。 ①学校行事や地域行事へ積極的に参加させる。 ②インクルーシブ教育推進のため、各種行事(体育祭、文化祭、マラソン大会、スポーツ大会)を通して、さいたま西分校との交流をより一層深める。 ②分校との共同学習(職業体験)を通して、さいたま西分校との更なる交流を図る。	①部活動の加入・継続率。 ①アルバイト許可制が徹底できたか。 ①地域行事に積極的に参加できたか。 ②さいたま西分校との交流が促進されたか。 ②共同学習への参加者が増加したか。	①部活動加入率は、年度当初65.2%から減少(11月末53.8%)。チアダンス部が昨年に続き全国大会出場、県大会出場の部活も増加。 ①アルバイト許可制は保護者の理解もあり定着している。 ①地域行事に積極的に参加し大きく貢献。 ②両校の生徒にとってプラスとなる体験ができてきた。教職員の学び合いも推進された。 ②共同学習の参加者は昨年度より10人増(71人)、参加者の満足度もほぼ100%であった。	B	①男女比が1:2.3の状況の中、部活動継続率が課題。中途退部者数を減らすための手立てや再入部等を検討する。 ①アルバイト許可後、学力不振になった生徒への指導方法を検討する。 ①引き続き地域貢献に取り組む。 ②生徒会同士の交流会を開催し、交流の促進を図る。 ②教員同士の情報交換も更に活性化させたい。	・部活動の継続率が下がらないように先生方にも引き続き指導をお願いしたい。 ・様々な地域行事に貢献していただき感謝している。引き続きお願いしたい。 ・馬宮地区の高齢者のお手伝いも生徒に協力していただきけるとありがたい。 ・生徒会として目安箱を設置し、より良い生徒会活動を目指したい。また、西分校の生徒会とも交流をしていきたい。
4	①HPについて、部活動に留まらず学校行事等をタイムリー且つ効果的に掲載する必要がある。 ②本校が地域行事に参加することにより、地域からの信頼度も年々高まりつつある。今後も本校を理解していただく機会を確保していく必要がある。	情報発信のさらなる充実	①本校の最新情報を発信するため、ホームページの更新方法を全職員が理解し、タイミングよく効果的にを行い、更新回数を増やす。 ①地域の方へ定期的に学校の取組状況を情報発信するため、タイムリーな情報を「大宮武蔵野ニュース」に掲載し発行する。 ②地域からの一層の信頼を得るために、地域行事へ参加し、生徒の自主的活動を披露する。	①HPの更新が適切になされたか。 ①「広報紙」大宮武蔵野ニュースを年2回発行できたか。 ②生徒の自主的活動を通しての開かれた学校づくり。	①ホームページのトップページを見やすくした。学校行事以外の日々の教育活動を中心に掲載し年間更新回数89回(12月末現在)。 ①広報誌「大宮武蔵野ニュース」を6月、11月に発行した。 ②通学路の清掃活動を定期的な実施した。華道部が近隣の高齢者施設でボランティアを実施し、地域から信頼を得ている。	A	①HPで更に多くの教員が情報発信できるよう、更新方法の伝え方を整備する。 ①大宮武蔵野ニュースについては2回発行を継続。 ②地域に一層信頼される学校づくりに向け、引き続き地域行事への参加や清掃活動などに取り組む。 ②参加する有志生徒の計画的な確保。	・「大宮武蔵野ニュース」を地域の回覧板で回覧したらどうか。 ・学校周辺の魅力についても、高校生の目線から発信をしたらどうか。 ・登校時の安全面確保の観点から、学校周辺の雪かきに取り組んでみたらどうか。